

見えない力がくれたありがとう

江戸川区立東葛西中学校 3年 幸村 みのり

私が小学生だった頃、学校が終わると友達と一緒によく近くの公園へ遊びに行っていた。特にその公園にあったターザンロープが大好きで、公園に行くたびに風を切って走るような感覚を味わうのが楽しみだった。友達と順番を決めて笑い合いながら何度も乗っていた時間は、今でも私の大切な思い出だ。しかしある日、いつも通り公園に行くとターザンロープの金具が壊れていて遊ぶことができなかった。その時、残念な気持ちで帰ったことを今でも覚えている。後日公園に行くとロープには使用禁止の貼り紙が貼られ、しばらく遊ぶことができなかった。そしてさらに後日、公園に行くとターザンロープはいつの間にか直されていて、また思い切り遊ぶことができるようになっていた。私はその時「直ってよかった！」と喜んだだけで、誰が直してくれたのかまでは考えなかった。

中学生になった今、ふとその時の記憶を思い出し、「あのターザンロープは誰が直してくれたのだろう。」と疑問に思った。気になって母に尋ねると、「国全体から集めている税金で直されているんだよ。」と教えてくれた。その言葉を聞いた瞬間、私は思わず「えっ、あれも税金で？」と驚いた。今まで税金と聞くと大人が払うお金で私には関係ないものだと思っていた。しかし、自分が大好きだった遊具が壊れた時、私が知らないところで税金が使われていたことを知り、急に身近なものに思えた。そしてもっと詳しく知りたくなり、自治体のホームページ等で調べてみることにした。

調べてみると、公園の遊具の修理や管理は自治体の環境課などが担当しており、職員の人々が定期的に公園を巡回して壊れている遊具を見つけると修理業者に連絡し、その費用は国民が支払っている税金から出されているとのことだった。また、公園の芝生の手入れやゴミの回収、遊具の安全点検も税金で行われており、私達が安全に遊べるように多くの人とお金が使われていることが分かった。私が小学生の時に楽しく遊んでいたターザンロープが税金で守られていたことを知り、当時の私が無邪気に笑って遊んでいたのは税金で支えられていたからなのだと感じた。もしあの時ターザンロープが直らなかったら、私はあんなに楽しい時間を過ごすことはできなかつただろうし、壊れた遊具で怪我をする子がいたかもしれない。

これからも私達が住む街が綺麗で安全であるためには税金が必要であることを忘れずにいたいと思う。また、大人になったら私も税金を収める立場になる。その時には、自分が収めた税金が誰かの安全や楽しみに役立っていることを心に留めておきたい。税金は私達の暮らしを支える大切なものであることを学び、公園で過ごした思い出をこれからの自分の未来への糧として刻んでいこうと思った。